

[太陽の光と熱そしてエネルギー]

砂漠は魅力的です。かつて森本哲郎著の『サハラ幻想行』を読み、遠い異郷の風景に思いを馳せたことがあります。それというのも、日本の高温多湿の風土風景にうんざりしていたことによるのですが・・・。



雨に煙る木々

このところ日本の気候が荒れ模様ですが、それでも季節感があり四季折々の自然の風景を楽しむことができます。この高温多湿の風土、風景、風物が面白く楽しく美しいと思うようになってきました。



ミゾバとツユクサ

今の建築の傾向はとかくエコポイントとかいいながら機械を使った、人工的で力業の手法にと展開しているようです。こうした状況は人々の生活と呼応しながらスパイラルに回転していくのでしょうか。

さらなる次世代住宅はロボットと共生する生活に早晚なるかもしれません。

しかし一方、このようなアクティブな人口空間ではなく、パッシブ的発想での暮らしを見直し、作っていく方法が展開されていくでしょう。

こうしたパッシブ的ライフスタイルは既に始まっていますが、メディアはエコハウスとかといろいろ目先を変えながら、今のみの商業主義、最近ではスマートハウスとか言って進化は新しい住宅、暮らしとイメージの強化を図っているのでしょう。



そして電力問題も絡み、太陽光発電設備設置普及を業界は競っていますが、ソーラー発電に至る前は、太陽熱利用として太陽熱温水器が流行し、その後、アクティブシステムの水集熱方式が開発されました。しかしコストや水漏れなどのリスクが多いこともあり、もう一方の空気集熱方式の方がパッシブ的志向でメリットもあり、OMソーラーシステムが実用化されました。

こうした機器を利用したシステム的一方、材料と工法を追求した高気密高断熱の家が登場。国も世界各国との関係から省エネ問題に力を入れ、断熱性能と気密性能のガイドラインを定めグレードアップを図ってきました。

最近では経済の低迷、震災などの影響で省エネ問題は省電気問題につながり、原発稼働が大問題になってきています。さてこれからは・・・



土蔵の室内が夏涼しいことは土壁が分厚いため断熱性能が良いといわれています。

ある資料では、土蔵内の湿気が土壁を通過しながら、外部の高温や太陽熱により気化するため冷却されるという話もあります。パッシブ冷房となりそうですが。

この現象が応用されればエアコンなどの冷房と共に、選択肢が増えてきます。

自然や伝統建築には、まだまだ未知数の世界が広がっていそうで魅力的です。